

希少魚を含めた水生生物の生息状況調査ーミヤコタナゴ生息状況調査ー（令和7年度）

菊池雅貴・村井涼佑・尾田紀夫・渡邊長生

目 的

本県では大田原市羽田地内及び滝岡地内、A 地内（保護のため、地名は未公表）、矢板市地内の 4 カ所の水路または池でミヤコタナゴの生息が確認されており、それぞれの生息地で地元保護団体、国、県、関係市等がその保護および生息地の保全にあたっている。

保全策を推進していくためには、生息地ごとに定期的かつ定量的な調査を継続し、生息状況を把握していくことが必要となる。そこで、滝岡、A、矢板の 3 生息地において、ミヤコタナゴの生息状況調査を実施した。なお、国の指定した保護区である羽田については、今年度は調査が実施されなかった。実施にあたっては文化財保護法に基づく現状変更許可を得た。

I 滝岡生息地

本調査は栃木県自然環境課、栃木県県北環境森林事務所、大田原市文化振興課、栃木県立馬頭高校および岡和久ミヤコタナゴ保存会と実施した。

方 法

調査は 2025 年 11 月 5 日に行った泥上げ作業にあわせて実施した。生息水路の水を排水した後、電気ショッカー及びタモ網で水生生物を採捕し、種を同定した。なお、移入種、外来種については計数を行わなかった。

結果および考察

ミヤコタナゴは 157 尾が採捕され、雄 70 尾、雌 23 尾、当歳魚 64 尾が確認された（表 1）。昨年度の調査では合計 317 尾が確認されており、生息尾数は大きく減少した。昨年度と同様、4 月から 9 月にかけて二枚貝（カワシンジュガイ）を 10 個体入れたカゴを設置し、ミヤコタナゴの繁殖促進を図ったものの、当歳魚は昨年度の 274 尾から大きく減少した。今年度はカゴの設置箇所が 1 カ所のみであったことから、次年度はカゴの設置を複数地点とする予定である。また、本来生息するヨコハマシジラガイが確認されない状態が続いている。ただし、二枚貝類の生息確認については泥上げ作業を重点的に行っている区域を中心に調査していることから、生息地内全体での調査を改めて実施する必要がある。

表 1 滝岡生息地で採捕された魚類

魚 種	尾 数
ミヤコタナゴ	157
ムサシノジュズカケハゼ	52
ドジョウ	93
スナヤツメ	7
モツゴ	5
タモロコ	11
カワムツ	多数
アメリカザリガニ	多数

II A 生息地

本調査は栃木県自然環境課、栃木県県東環境森林事務所、栃木県なかがわ水遊園、関係市、宇都宮大学、栃木県ミヤコタナゴ研究会および地元住民と実施した。

方 法

調査は 2025 年 11 月 19 日および 20 日に実施した。流程約 1 km の水路において、上流端から 10 m あるいは 20 m 間隔に設定した定点 57 地点（上流端から 140 m の範囲を 10 m 間隔とした）と段差や堰の直下 5 地点の計 62 地点にセルビンを約 90 分間設置し、水生生物を採捕した。採捕したミヤコタナゴは全長を測定し、雌雄を確認した後、腹鰭の一部を切除することで標識し、ピーターセン法を用いて生息数を推定した。

結果および考察

1 日目の採捕数が 762 尾（標識後放流）、2 日目が 516 尾（うち、再捕数 196 尾）であった。水路内の生息数は $2,006 \pm 97.3$ 尾と推定され（図 1）、昨年度の 819 尾から大きく増加した。一方、2 日間で採捕された個体（重複なし）の 85.0% が当歳魚であり、今年度も繁殖は良好であったと考えられる。

採捕地点は 27 地点で、昨年度よりも 4 地点増加した（図 1）。採捕尾数の流程分布を見ると、下流域に偏る傾向が見られた（図 2）。中流部と下流部の間に位置する堰が生息地間の移動を妨げていることから、遺伝的多様性を保全するために一部の個体を中流部に移動した。なお、3 月 1 日に A 生息地内で二枚貝の生息状

況を確認した結果、マツカサガイ 48 個体、ヨコハマシジラガイ 20 個体、不明 3 個体が確認された。このことから二枚貝にとっても良好な環境が維持されていると思われる。

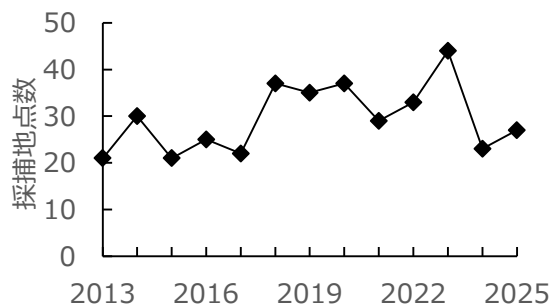


図 1 A 生息地での採捕地点数の推移

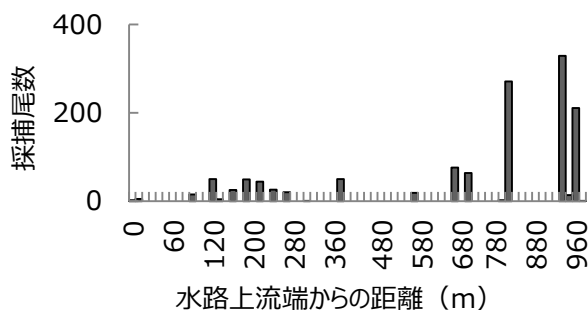


図 2 A 生息地の流程ごとの採捕尾数

は低水準であり、依然として二枚貝の再生産に適した環境が形成されていないものと考えられる。昨年度に 13 尾確認されたタイリクバラタナゴは、今年度も 149 尾が確認されたことから、引き続き本種への対応を検討する必要がある。

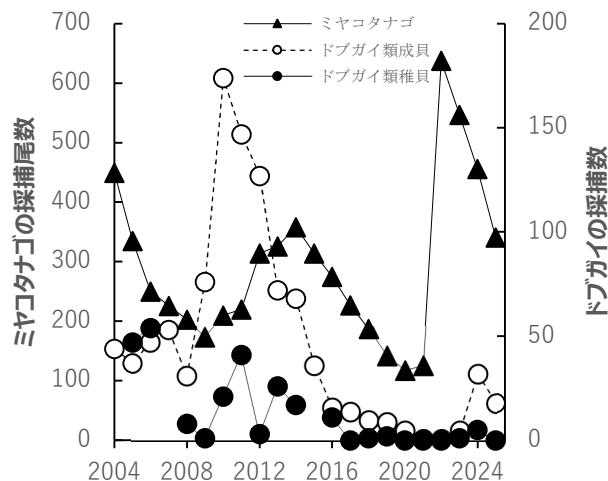


図 3 矢板生息地のミヤコタナゴおよびドブガイ類の採捕個体数の推移

(指導環境室)

Ⅲ 矢板生息地

本調査は栃木県自然環境課、矢板市生涯学習課、山田行政区および山田ミヤコタナゴ保存会と実施した。

方 法

調査は 2025 年 10 月 18 日に実施した。生息池の水を排水した後、タモ網等で水生生物を採捕し、種ごとに計数した。

結果および考察

341 尾のミヤコタナゴが採捕され、昨年度の 456 尾から減少した(図 3)。このうち当歳魚 190 尾が確認された、全採捕数に占める割合は 55.7%と昨年度の 11.4% (52 尾) から増加し、再生産が順調であったことが確認された。当生息地では 2022 年からドブガイ類およびカワシンジュガイを導入し、ミヤコタナゴの繁殖促進を継続している(産卵終了後、導入個体は回収し、それぞれの生息地に返還している)。今年度に確認された在来のドブガイ類は 18 個体(導入個体を除く)でいずれも成員であり、稚貝は確認できなかった。再生産